

人はなぜことわざを使うのか

—コーパス日本語会話における位置とはたらきの分析から—

谷畑美咲（関西学院大学大学院生）

1. はじめに

我々の日常会話において、ことわざはしばしば使用されるが、日本語教育においては、あまり使わないので、積極的に教えない、という傾向も強い。しかし、教えるかどうかの意義を検討する上で、頻度だけではなく、日本語話者はどのような時に、なぜことわざを使うのかを明らかにする必要があるのではないだろうか。しかし日本におけることわざの研究は多く存在するものの、それらは主に分類に主眼を置くもので、ことわざが人々の言語活動の中で果たすはたらきそのものに注目した研究は管見の限り少ない。そこで本研究では、ことわざが会話の中でどのようなはたらきをするかを「会話中の連鎖上の位置」という観点から探る。この問いを解明することで、そもそも我々はことわざを使用することで何を成し遂げようとしているのか、という本質的な意義に迫ることができると考える。

2. 先行研究

2.1 日本語におけることわざの先行研究

穴田（1996）によると、現在、日本国内におけることわざに関する研究は、主に民俗学的研究と、社会学、文化人類学、社会心理学の4つの領域で行われている。これらの多くは口承文芸や現存する書物にあらわれることわざの分類である。人々がことわざを使うことで何を遂行しようとしているかを解明するためには、実際の相互行為のデータを詳細に見ていく必要がある。

2.2 会話分析におけることわざの研究

Drew & Holt (1998)は、ことわざ(Proverb)を含む Figurative expressions を会話分析の観点から分析し、(1)話題を要約し、(2)参加者の同意が行われた後、話題を収束させる機能があることを明らかにした。

発表者は Drew と Holt の研究を踏まえて、日本語の日常会話データを用いて、日本語母語話者がことわざを使用するとき、どのような相互行為上の課題を解決しようとしているかに焦点を当てて分析を行う。

3. 分析手法とデータ

本研究では、会話分析の手法を用いる。会話分析は、「連鎖上の位置」と「発話の組み立て」に着目し、この2つの観点から発話のはたらき（行為）を明らかにする学問である。これらの観点は、研究者だけではなく、その会話の参加者自身が、その発話がどのような行為を遂行しているのかを理解する上で利用している観点でもある。つまり会話分析という手法を用いることは、人々がコミュニケーションを行う際に、ことわざを使用することで一体何を遂行しているのかを探るという目的に適っている。

本研究が対象とするデータは、米ペンシルバニア大学の David Graff 教授が収集した電話会話コーパス Call Friend および Call Home に収められた日本語母語話者同士の会話である。

4. 分析

これまでの分析から、ことわざのはたらきについて、(1)「話題を終わらせること」と(2)「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけること」という2つがあることが明らかになった。以下では、それぞれのはたらきについて、具体的な事例を示しながら説明する。

4.1 ことわざのはたらき①「話題を終わらせること」

断片(1) [医者の不養生]

01 B: う:ん, ガンは大したことなかったんだって.

02 A: あ:そうなの?:

03 B: [だけど:肺炎起こしたんだって.

04 A: う:ん.

05 B: ほら:, やっぱり手術で血液が足らなくなるでしょ:;

06 A: う:ん.

07 B: ん-だから:肺炎起こしちゃったら治らなくなっちゃったみたいね.

→08 A: ()なにそれ, 医者のおふ-医者のおふう-

→09 A: おふう-

→10 B: おふ[ようじょう.

→11 A: [おふうじょうだね:.

12 B: <そうだねえ:>

13 A: ねえ:.

A と B は親戚同士で、生前は外科医であった叔父の死因が、ガンではなく肺炎であったと B が A に切り出す。02 行目で A は驚きを示すものの、04, 06 行目ではあいづちを打ちながら B の詳しい説明に耳を傾けている。07 行目で B は説明を一通り終える。次は、例えば「気の毒に」とか「大変だったね」というような、話題全体に対しての A の評価や感想が期待される位置である。まさにそこで、A はことわざを用いて自身の評価を述べる(08 行目)。言葉の産出がスムーズにいかず、修復が起こるものの、12, 13 行目で A と B による同意がなされて話題は収束し、この後、次の話題へと移っていく。ことわざには、元来、話題の凝縮度が高く、さらに使用者側の、話題に対する端的な評価を含む、という特徴があると言われている(武田, 1999)。これらの機能が、ここで A が一言で話題のエッセンスをまとめ、同時に自身の驚きや否定的な評価を同時に表明することを可能にしている。

4.2 ことわざのはたらき②「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけること」

断片(2) [案ずるより産むがやすし]

01 M: あ:そ:なんだ. よかった[じゃ↑ない:; 心配して-

02 S: [う:ん.

03 そうそうそうま:ありがとね=でも う:ん=すみませんでした.

→04 M: いえいえ,あの: 何とかより産むがやすしで何だっけ?

05 S: う:ん.

06 M: ね.

07 S: う:ん.

→08 M: 案ずるより産むがや(h)す(h)し(h)か(h)

09 S: ¥よく知ってるね:そんなことば:¥

M と S は友人同士であり, M のおかげで S の近親者の生活が好転したというエピソードを S が M に語った直後の会話である. M がそこまでのエピソードに対する自身の評価を示した後, S は M に対して感謝を述べる(03 行目). 次の位置で, M は自身に向けられた感謝に対応しなければならない. そこで M はことわざを使用して(04 行目), 自身に向けられた感謝の対象となったエピソードに対し, 個人的な話として反応する代わりに世間一般の話として反応を返すことで, 自画自賛となる可能性を回避しつつ, 同時にことわざのエッセンスを利用することによって, 話題全体に対する自身の評価を一言で示している.

断片(3) [貧乏暇なし]

01 K: .h いや:だからダメだよ:来なきゃ.

02 F: AHAHAHAHA <そ(h)ん(h)な(h)ダ(h)メ(h)だ(h)よ(h).

03 K: fufufu ¥1 年に 1 回は来るようにしなきゃ:¥

04 F: °いきたい °-[行きたいなあ:,

05 K [ふぐ旦那さんがお医者さんなんだか↑ら:.

06 (.)

07 K: °う:ん °

→08 F: え:m そんな:on 貧乏暇なし:.

09 K: ¥またまたウソばっか¥

10 F: ↑もうかんないのよ::.

11 K: えっ, ¥またウソばっかり:¥

12 F: ほんとに歯医者ってダメよ:∩.

13 K: ウソばっかり, 治してくれない?

F には歯医者のお夫がおり, K は独身で金銭的に厳しい生活, という立場が異なる友人同士の会話, K は具体的な数字を持ち出したり, 「~しなきゃ」と義務の表現を用いたりして, 強い誘いを繰り返す(03 行目). それに対し, F は笑いながら否定したり, 「行きたい」と自身の希望を述べたりして, 誘いへの回避を試みる. しかし 05 行目で K は「医者は一般的にお金持ち」という一般的な見方を持ち出し, 三たび誘う. ここで自身の帰属へのうらやみを回避しつつ, 誘いを断るというジレンマに直面することになった F は, ことわざを用い, 自身の個人的な状況ではなく, 世間一般のこととして発話することで, デリケートなトピックに対するうらやみを回避する(08 行目). さらにことわざのエッセンスを利用することで, 「お金がない+時間がない」という二つの断りの理由を同時に示すことが可能となり, K の繰り返された誘いを終わらせることに成功している.

4.3 考察

4.1 では、ことわざが元来持つ特徴を利用して、一言でその話題やエピソードのエッセンスをまとめ、同時に使用者側の評価を示すことによって話題を終わらせるはたらきを考察し、4.2 では、張(2014)で「焦点ずらし」と呼ばれる、褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざけるはたらきについて考察した。分析の結果、我々はことわざを使うことで、他の言い方では解決することができない、参加者たちが会話中に直面し、都度解決しなければならない様々な課題をクリアしていることが分かった。なお、張では、「焦点ずらし」をポジティブな評価に対する聞き手の応答の方略の一つとして見出しているが、本研究の分析の結果、「焦点ずらし」が、ポジティブな評価以外のものに対しても用いられていることが明らかになった。

5. おわりに

本研究では、ことわざの「話題を終わらせる」はたらきが、実際の相互行為でも有効であることを実際の会話データから証明した。また、新たに、焦点ずらしをすることによって、「褒めや個人的なトピックから話題の主を遠ざける」はたらきがあることを明らかにした。しかし、これらはまだことわざの持つはたらきの一端に過ぎない。今後は引き続きデータを追加・分析して他のはたらきがあるかを解明するとともに、参加者たちが会話の中で、その都度どのようなアイデンティティ（例えば感謝された人、褒められた人、等）に志向し、直面する課題の解決策として「なぜ・そこで・いま」ことわざを使うことが適切であるのかを引き続き探る必要がある。

（付記）記号会話データの転記は Gail Jefferson によって開発された記号を元に、日本語向けに整理された西阪・串田・熊谷(2008)を参考にした。

- :: 直前の音の引き延ばし。コロンの数は引き延ばしの長さを示す
- ./, 語尾の音が下がり発話が終わる抑揚とやや下降調で発話が続く抑揚
- ?/ ; 上昇調の抑揚とやや上昇調の抑揚
- 。° 音が小さい部分
- [複数の参加者の発する音声の重なり
- () 聞き取り不可能な箇所。空白の大きさは、聞き取り不可能な長さに対応
- < > 発話のスピードが著しく遅くなる部分
- .h/h 吸気音と呼気音（言葉の後ろに h がつく場合、笑いながら発話が産出されている）
- ¥¥ 発話が笑い声でなされている
- 言- 言葉が不完全なまま途切れている
- ↑ ↓ 直後の音調の極端な上がり下がり
- (.) 0.2 秒以下の短い間合いを示す

参考文献

- 穴田義孝 (1996). ことわざに関する社会心理学的 研究序論, 政経論叢, 64(3・4), 117-298.
- 張承姫 (2014). 相互行為としてのほめとほめの応答 -聞き手の焦点ずらしの応答に注目して-, 社会言語科学, 17(2), 98-113.
- Drew, Paul & Holt, Elizabeth (1998). "Figurative of Speech: Figurative expressions and the management of topic transition in conversation" *Language in Society* 27, 495-522
- 武田勝昭 (1999). ことわざによるトピックの要約, 語用論研究, 1, 15-28.